

上：大師堂の下の広場から見た中在所集落（昭和34年頃）

〔写真出典：上村俊邦著『越県合併資料 石徹白合併鶏肋集』〕

下：同じ場所から見た中在所集落（現在）〔写真提供：郡上市〕

白山信仰は神仏習合の信仰なので、神像と仏像と一緒に祀られていました。しかし、明治の神仏分離令と、それに続く神葬祭騒動の結果、上在所は神道の領域となり、カミのみしか祀ることができなくなりました。それまで上在所の白山中居神社等に祀られていたホトケの薬師如来像や泰澄たいちょうだいし大師像を移す必要がでてきました。そうしたときに、中在所に新しく建てられたのが大師堂だいしどう・観音堂かんのんどうです。

寄進された山の中腹を、地元の人たちが切り開き、石を運び、石段・石垣を組み、建てられたといわれています。

国指定重要文化財の「銅造虚空像菩薩坐像どうぞうこくぞうぼさつざぞう」も安置されています。